

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

3

テクノの
未来を
考える

2026年7月

みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年6月22日には、「まちづくりチーム」の第2回会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

チーム会議 開催概要【まちづくりチーム(第2回)】

■日 時: 令和8年6月22日(火曜日)

18時00分～19時30分

■場 所: 光都プラザ cotohana (+ Web)

■出席者数: 28名

・まちづくりチームメンバー 23名
(有識者2名、行政職員10名、地域住民11名)

・傍聴者 5名

■プログラム内容: 1.開会

2.ワークショップ(意見交換)

3.意見の共有

4.閉会

・前回(第1回)に引き続き、3班に分かれて意見交換を行い、付箋を用いて意見を出し合いながら論点に基づく具体的な検討項目を整理し、各班の検討結果を全体で共有しました。

【まちづくりチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

- ①日常生活(医療・福祉・買い物等)の基盤の確保
- ②くらしの安全(防災・防犯等)の確保
- ③公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保
- ④住環境の質の確保(豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等)
- ⑤働く場・環境の確保
- ⑥多様な人がつながるコミュニティの形成
- ⑦質の高い教育環境の確保
- ⑧学生・研究者にとって魅力あるまちづくり
- ⑨研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出
- ⑩住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場(空間)の創出
- ⑪都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成
- ⑫既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用
- ⑬若者等の定住・雇用環境の整備
- ⑭自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開

☆コラム 有識者に聞いてみた!

まちづくりチームの役割とは?

行政や専門家だけで都市の将来を考え、住民の皆さんに示すだけでは、まちをつくる人と使う人が分かれてしまいます。短期的にはうまく見えても、長い目で見ると、まちの力が弱まってしまうことがあります。

良いまちであり続けるためには、そこに住む人たちがまちを好きで、自分たちで考え、行動していくことが大切です。

このまちづくりチームは、住民の皆さんの声を共有し、将来像に反映していくための場です。ただし、出された意見がすべてそのままビジョンに入るわけではなく、他のチームでの検討も踏まえながら、できること、できないことを整理していきます。

皆で意見を出し合い、学びながら考えを深め、できることを実行につなげていく。そうしたステップで、県市町や住民の皆さんと一緒に考えていきましょう。



チーム会議の様子

主な意見



その他、全ての意見
はこちら！



参加者

- 医療・防災・スポーツ・教育などのテーマや、サッカー場等の既存施設の活用など“科学”だけでない核が重要
- ドローン特区など、先端技術を活用・発展させるまちとしてテクノを打ち出すことで、企業誘致につながるのではないか
- 地域側から「こういう技術を持った企業に来てほしい」と発信し、企業誘致につなげる動きができるとうい
- 学生が働ける場所をつくることで、アルバイト先の選択肢が増え、学生がまちなかに滞在する機会も増えるのではないか
- まちなかで自由に使えるネットワーク環境を整備することで、市民や来訪者の利便性が高まり、交流や滞在の促進につながるのではないか
- 高齢化を課題としてだけでなく地域の強みとして捉え、高齢者と地域が互いに支え合う、互助的な地域づくりを目指してはどうか
- コープこうべのアプリの仕組みなどを参考に、住民同士で日常の困りごとを支え合う仕組みができないか
- 播磨科学“公園都市”らしく、まち全体を公園のように捉え、周辺と連携した貸農園や公園の美化活動などを通じて、住民も主体的に景観・環境づくりに関わりながら、美しく観光できるまちを目指してはどうか
- テクノ独自の文化を育てていくため、多様な環境を活かしながら、地域の特色や住民の思いを反映していくことが重要である
- 地域で収益を生み、その収益をまちの維持管理や魅力向上に還元する仕組みを検討できないか
- 企業・大学・サッカー場など人が集まる施設はあるものの、地域内の回遊が少ないため、LUUPなど移動しやすい仕組みが必要ではないか
- 若者に届く情報発信となるよう工夫し、地域資源を掘り起こし、まちの魅力として伝えていくことが必要



有識者（コーディネーター）

- 辛口の意見や「悪いところ」に見える意見も、まちを考えるうえでは大切な視点であるため、遠慮せずに出していただきたい
- 前回よりも自身の実感に基づく意見や具体的な課題が多く出されており、回を重ねることで議論の解像度が上がってきている
- 今回の議論を通じて見えてきた論点を都市フレームチームやイノベーションチームなどの専門家と共有し、学びを深めながら検討を進めていくことが重要
- まちづくりを進めるうえでは、住民自身も努力しながら、県や関係市町などの行政も連携し、一体となって取り組んでいくことが必要
- 住民からの相談や取組を受け止め、支援につなげる窓口や入口を明確にしていくことも重要

チーム会議はスタートしたばかりです。今後もワークショップ等の意見交換の機会を予定しています。テクノの未来を、一緒に考えていきましょう！



播磨科学公園都市の新たなあり方 検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課
【電話番号】078-362-3850
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情
報はこちらをご覧
ください
(兵庫県企業庁HP)

